

研究機関：広島大学

研究課題名	術後体温に関連する因子の調査
研究責任者	広島大学大学院医歯薬工学研究科府勤産生学 職名 教授 氏名 梶 保幸
研究期間	2019年11月21日(倫理委員会承認後)～2025年4月1日
対象者	2010年4月から2019年10月の間に、広島大学病院手術部で全身麻酔下に手術を受けた患者さんを対象とします。
意義・目的	全身麻酔下で行われる手術では、手術中に体熱が失われることや体熱の産生が不十分であった場合に、全身麻酔後の合併症の一つとして、震え(シバリング)を生じます。シバリングの予防として手術中に加温して患者体温を上げていますが、どの程度の加温が必要なのかはわかりません。本研究は、術後の体温上昇の経過から、手術後にシバリングを起こさないために必要な体温を推測することを目的として行います。本研究を行うことで、現在行われている手術中の加温が十分かそうでないかがわかり、今後の診療に生かすことができると考えています。
方法	本研究は、すでに記録されている診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は手術前後の体温の推移に加え、身長、体重、性別、血液検査(手術の前後に必要な応じて行われている検査の検査値)、レントゲン写真などの画像情報、手術時間、術後の合併症、入院期間です。個人を特定可能な情報は解析に使いません。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	